

## 今後の区立幼稚園のあり方について

区は、「新しい中野をつくる10か年計画」に基づき、平成22年度に区立やよい幼稚園を私立の幼保連携型認定こども園に転換し、みずのとう幼稚園を私立の幼稚園型認定こども園に転換した。

平成31年度には、幼保連携型認定こども園として、私立なかのこども園を新規誘致し、その後は、区立かみさぎ・ひがしなかの幼稚園の認定こども園化が計画化されている。

教育委員会において、今後の区立幼稚園のあり方を検討した結果について、下記のとおりまとめたので報告する。

### 記

#### 1 区立幼稚園に係る検討等の概要

##### (1) 区立幼稚園配置の経緯

中野区においては、私立幼稚園を中心に幼児教育の環境が整備される中において、その地域の偏在を解消するために区立幼稚園が配置された経緯がある。

##### (2) 区議会での陳情採択と保護者の要望

平成28年、区民から区議会に区立幼稚園の存続を求める陳情が4件提出され、2件の陳情が採択された。令和2年1月に保護者懇談会を実施した。主な意見は、幼稚園としての存続及び区立による運営の継続であった。

##### (3) 認定こども園の意義

国は子ども・子育て支援新制度において、様々なライフスタイルに対応し、幼稚園と保育所機能が単一施設において一体的に提供できる認定こども園を推進している。特に幼稚園型認定こども園は、保育が必要な児童であっても幼稚園の幼児教育を受けたいという保護者の希望に応えることができる利点がある。

##### (4) 他区の幼稚園・認定こども園の設置状況

他区の状況を見ると、平成28年度から令和2年度にかけて、区立・私立あわせて、幼稚園は26園の減、認定こども園は21園の増となっている。

#### 2 今後の方向性等

##### (1) 検討の方向性

かみさぎ・ひがしなかの幼稚園は、当分の間、区立幼稚園として継続する。利用者の様々なライフスタイルに対応できる幼稚園型認定こども園の検討を続けることとし、認定こども園の検討にあたっては円滑な運営となるよう先行自治体の運営状況等を十分把握する。

(2) 園舎の建替え整備

区立幼稚園の園舎の建替え整備にあたっては、より効果的な敷地活用を図るとともに、運営ノウハウや財政負担等についての十分な検証と保護者や関係者の理解を踏まえたいと、認定こども園とした場合にも対応できる規模の施設整備を検討する。

(3) 保護者等の理解促進

上記の検討にあたっては、拙速に進めることなく、保護者や関係者への説明を丁寧に行い、対話を重ねながら進める。

(4) 運営形態等

「新しい中野をつくる10か年計画（第3次）」では公立幼稚園2園を民設民営の認定こども園としているところである。当該計画策定時、区では認定こども園の運営ノウハウがなく、民間の運営ノウハウにより区立幼稚園を民設民営の認定こども園に転換することを計画したものである。

現在、特別区内の公立認定こども園の運営実績も積み上げられ、区の認定こども園運営の参考とすることも可能な状況となった。また、令和元年度から幼稚園型一時預かり事業も開始し、幼稚園教諭と保育士の相互連携も進みつつある状況にある。

一方、区立幼稚園を区立の幼稚園型認定こども園として残すことで幼児教育のモデル的、先進的な内容も含め、実践活動を積み上げて15歳までの一貫した保幼小中連携教育に反映させることが可能となる。以上のことから、人事の硬直化という課題はあるものの区立の幼稚園型認定こども園としての可能性を検討していく。